

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590104083		
法人名	医療法人 星の里会		
事業所名	グループホーム シャンバラ		
所在地	山口県下関市小月茶屋2-8-27		
自己評価作成日	令和3年 4月 25日	評価結果市町受理日	令和3年8月5日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
調査実施日	令和3年5月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の選択メニューによるバランスの摂れた昼・夕食の提供。 ・2ヶ月に1回シャンバラ便りを作成し、家族配布をし、近況が分かるようにしている。 ・医療連携体制による看護師との連携が確率されており、緊急時対応ができています。 ・利用者個々の意向や思いの把握に努め、適度な運動や側に寄り添い話しを聞いたりその都度、利用者に合わせて対応をしている。 ・年間行事を元に法人合同の行事やグループホーム独自の会、地域の行事への参加等を行い気分転換を行っている。(去年度や今年度は、新型コロナウイルス感染症予防の為、可能な範囲で各部署ごとに行うなど工夫をしている)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>運営推進会議は年6回書面での開催としておられ、利用者の状況、活動報告と予定、ヒヤリハット事故報告、身体拘束防止等について報告されて、メンバーからその都度、書面での意見を頂いておられ、返答を書面で送っておられます。骨折や転倒に関する意見や提案に対して、内部研修で転倒の対応を学ばれている他、下肢の運動等をさらに組み入れておられるなど、意見をサービスに活かしておられます。事業所内では、おやつづくりや誕生会、季節の行事(書初め、節分祭での豆まき、ひな祭り、七夕祭、敬老会、運動会など)、拠点での行事(納涼祭、クリスマス会)へ参加されて楽しみごとの支援をしておられます。四季を感じてもらうために、季節の花を飾られたり、その季節の沿った音楽をながされて、気候の良い日は窓をしっかり開けて外気に触れる工夫をしておられる他、天候のいい日には施設周辺の散歩やドライブ(みかん狩り、東行庵、桜の花見、受診時の自宅周辺)に出かけて気分転換をはかるなど、支援に取り組んでおられます。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない(新型コロナウイルス感染)
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない(運営推進会議中止) 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働いている (参考項目:12. 13)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念が3つあり、それぞれが実現可能か難しいか確認し、実践出来るように話し合っている。事業所内の職員の目の付く場所に掲示している。	地域密着型サービスの意義をふまえた独自の理念をつくり、事業所内に掲示している。月1回の職員会議や自己評価を記入する時に、全職員で理念について話し合い共有している。職員は日々のケアの場面において、理念に沿ったものであるかを確認しながら実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入会している。新型コロナウイルス感染症予防の為、行事等中止になり参加は出来なかった。年2回の町の町内清掃には参加している。	自治会に加入し、回覧板が回ってくる。職員は年2回の地域の清掃活動に参加している。コロナ禍で地域行事は中止となり出かけることはなかったが、拠点施設と合同で実施している納涼祭やクリスマス会で他施設の利用者との交流を深めている。福祉専門学校の見学実習生を受け入れている。事業所は、今年度自治会内の班長となり、町内会費徴収の際には事業所の紹介PRをしているなど、事業所は地域の一員としての交流に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	回覧板を配布し、地域住民と会話をしたり、年2回の町内清掃の際、パンフレット当を配布し理解を深める。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価を職員に配布し、管理者は取りまとめている。何か月ごとに外部評価の意義について話し合い記録や緊急時対応、避難訓練当を行っている。	職員会議の場で管理者は評価の意義について説明し、項目について皆で話し合った後、全職員に自己評価のための書類を配布している。職員が記入したものをもとに、職員会議で話し合い確認して管理者がまとめている。職員は、評価を日々のケアの振り返りと捉えている。階段を使用した避難や車イスでの避難を皆でシュミレーションするなど、具体的な改善に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の定期開催だが、新型コロナウイルス感染症予防の為中止となっている為、委員の方々の意見表を議事録と共に配布している。	会議は年6回書面での開催とし、利用者の状況、活動報告と予定、ヒヤリハット事故報告、身体拘束防止等について報告し、メンバーからその都度意見を書面で受けている。骨折や転倒に関する意見や提案に対して、内部研修で転倒の対応を学ぶ他、下肢の運動と日中の廊下歩行をさらに組み入れるなど、そこでの意見をサービスに活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者とは、メールや相談票、FAXにて協力関係を構築するようにしている。地域包括支援センターの職員とは、新型コロナウイルス感染症予防の為、文書やFAXにより連携をしている。	市の担当者とは、電話やメール、FAXで法改正に伴う疑義について助言を得たり相談をして協力関係を築くように努めている。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議の書面での意見や提案を聞いたり、利用者や地域の状況を情報交換をして連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について定期的に勉強会や委員会を行っている。スピーチロックや事例を挙げたりして話し合っている。また、意識しながら業務を行うようにしている。	「身体拘束適正化のための対策検討委員会」を3か月毎に開催している他、職員は拘束について内部研修で学び、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。外出したい利用者に気付いた時は、気分転換のために言葉かけの工夫をしたり、職員と一緒に出かけている。スピーチロックについては、その都度管理者が指導し、職員どおしで話し合ったり注意しあっている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	勉強会等で言葉遣いやケアの統一を図っている。入浴時や更衣時等身体に観察をしている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度についての資料を基に職員間で共有する時間を作り理解を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の際、契約書や重要事項説明書等十分に説明をし、納得して頂けるまで説明をしている。疑問点や要望等ないかその都度、ご家族に確認をしている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談、苦情の受付体制、処理の手続きについて、契約時に説明している。シャンバラ便りを配布し、日頃の生活の様子を伝え、家族からの要望を聞くようにしたり、来所時に積極的に意見や要望、相談を聴く機会を設けている。	契約時に、苦情や相談の受付体制、処理手続きについて本人と家族に説明している。面会時や電話、2か月毎の事業所だより送付時に、家族からの意見や要望を聞いている。日常生活での要望についてはその都度適切に対応している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りや日頃の会話、月1回の職員会議の際、職員の意見や提案を聴き、勤務体制や利用者との関わり、対応の見直しを行っている。	管理者は、月1回の職員会議や朝夕の申し送り時に意見や提案を聞く機会を設けている他、日常業務のなかでも聞くように努めている。職員会議の前日までに議題を提出することで会議の効果的な進行を図っている。「リネン交換管理表」の様式を作成したり、誤薬防止のための「薬のマニュアル」を作成する他、利用者の食事や入浴に関するケアの確認や、感染予防のための面会制限についての意見や提案を運営に反映している。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員会議や個人的に意見交換を行ない、不安や疑問を聞き出すように努めている。働きやすい環境を目指している。また、個人、個人で役割を持ってもらい責任感の中でやりがいに繋げられるように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回職員会議と同時に勉強会を行い、緊急時対応や、その都度必要と思われる事案について勉強会をし共有している。資料は、閲覧しやすいように回覧している。	外部研修は職員に情報を伝え、希望と段階に応じて勤務の一環として参加の機会を提供しており、年1回感染症について1名参加している。受講後は内部研修で復命し、職員間で共有している。内部研修は、管理者や職員、看護師が講師となり、身体拘束、嚥下、認知症ケア、安全管理、入浴時の緊急時対応、感染症の予防と対策(ノロウイルス、新型コロナウイルス)、転倒、熱中症について実施している。新任研修は、管理者による研修受講後、現場で先輩職員の指導をうけて働きながら学べるように支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に入会しており、協会主催の勉強会に参加するように努めているが、今回は新型コロナウイルス感染症予防の為、参加等出来ていない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期のサービスを導入する段階で帰宅願望や寂しさを訴えたり等する中で思いを聴いたり、馴染みの関係を構築したり、安心して生活出来るように努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設のパンフレットを用意し、見学時等に疑問や不安等を時間をかけて説明をしている。また、意見箱も設置している事を説明し、投稿出来るようにしている。ご家族の個人情報を厳守することを職員間で徹底している。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人内の他施設についてももしっかり説明し、入所後であっても変更可能な点や金銭面も含め説明をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念を念頭に利用者に寄り添い、尊厳を持った対応を心掛け、信頼関係を構築出来るように努めている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時、最近の健康状態を伝え、家族からの要望等があれば伺っている。2ヶ月に1回のシャンバラ便りを配布し、季節ごとにどのような行事を開催しているか、説明している。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染症予防の為、出来ない状態が長いが、可能であった時期は、面会時は利用者と家族等、話をされている。	面会が制限されるなか、家族とは窓越しに顔を合わせたり、2階から手を振っている。年賀状や電話、手紙での交流を支援をしている。娘からの手紙を読むように利用者から頼まれ、頻回に読んで聞かせている他、事業所周辺を散歩したり医療機関受診時に帰途自宅周辺をドライブするなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援に取り組んでいる。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	小鉢の盛付けや洗濯物たたみ等、出来る事はやって頂く。但し、無理強いせず参加してもらっている。利用者が孤立しないよう職員が間に入り会話したり、体操や散歩等身体を動かして気分転換を図っている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談援助が必要であれば、様子を聞いたり、日頃から相談しやすい関係を築いている。また、母体の病院や関連施設へ入所していれば声掛けをし、困った事等ないか相談援助をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事前にご家族から聞き取った生活歴や実際に関わり、利用者の言葉や様子、気づき等記録に残し職員間で共有し把握するように努めている。困難な場合は、職員間で意見を出し合い、本人本位に検討している。	入居時に「退院対処情報提供書」や「アセスメントシート」を活用して、今までの生活、馴染みの人や場所などの情報を得ている。日々の関わりのなかで、利用者が発した言葉や表情、行動を「介護記録」に記載している。今までの生活パターンを大切に、ゆっくりと会話の時間をとって、利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、家族に相談したり職員会議やカンファレンスで本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時の際や面会時、生活歴や馴染みのくらし、趣味、性格等聞き取り職員間で共有している。利用者からも、昔の暮らしぶりや趣味等を聞き取り、ケアに繋げられるよう会議等で話し合い実践に繋げられるよう日々努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者個々の身体状況や思いを考慮し、業務優先になることなく、自立支援を念頭に利用者のペースで支援出来るように努めている。また、職員会議でも話し合い現状の把握を行っている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族の意向、看護師等の意見を参考に話し合い、介護計画を作成している。6ヶ月毎にモニタリングを実施し、見直しをしている。利用者の状態や要望に変化があれば、その都度、介護計画を作成している。	計画作成担当者と利用者担当職員が中心となって、月1回カンファレンスを開催し、本人の思いや家族の意向、医師、看護師、理学療法士の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。1か月ごとに評価し、6か月毎にモニタリングを実施し、介護計画の見直しをしている。利用者の状況に応じてその都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子等介護記録に記載し、朝、夕の申し送り時に職員に伝達共有している。申し送りノートも活用し、2重チェックで周知徹底を図っている。その中で介護計画と照らし合わせながら変化があればその都度変更している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員の考えではなく、利用者本位の対応を心掛けている。家族の要望があれば、夫人内の他施設について詳しく説明をしている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	歩行状態等年々悪くなっているため、施設内や周囲の散歩に出かけたり、自治会の清掃に参加した際挨拶を交わしている。買い物等は地域のスーパーを利用している。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関をかかりつけ医として2週間か4週間に1回定期受診している。受診結果は、連絡帳や引継ぎ等で共有している。夜間、緊急時は、院長や看護師尾に連絡し、適切な医療を受けられるように支援している。	協力医療機関をかかりつけ医とし、2~4週間に1回受診の支援をしている。他科受診は家族の協力を得ており、歯科は必要に応じて受診の支援をしている。受診結果は、家族には電話や面会時に伝え、職員には申し送り時と業務日誌、連絡ノートに記載して伝えている。休日や夜間の緊急時には協力医療機関と連携して適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は3日間以上勤務しており、介護職は変わった様子等あれば、看護師の申し送り、助言を得ている。看護師は、健康管理表を作成し、利用者個々の健康状態を把握し、介護職員へ伝達し、業務に活かしている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療連携体制も行っており、入院が必要な際は、母体の病院の医師、看護師、管理者と連携し対応している。退院の際も受け入れ体制を整えている。また、ご家族への連絡も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	急性期における医師や医療機関との連携体制に基づいて事業者で出来る対応について、契約時に家族に説明して思いについて聴きとっている。じxさいに重度化した場合の家族やかかりつけ医、医療機関への移設も含め相談し、支援している。	契約時に、重症化や終末期に事業所ができる対応について本人や家族に説明している。実際に重症化した場合は、早い段階から主治医や看護師の意見を聞きながら、家族や関係者と話し合い方針を決めて共有しチームで支援している。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事例が発生した場合、他職員とも話し合い、の元ヒヤリハット、事故報告書を記入し回覧、押印している。月1回の職員会議にて再検討し、事故防止に取り組んでいる。事故発生時に備えて定期的に緊急時対応等の勉強会を行っている。	事例が発生した場合、その場の職員が「ヒヤリ・ハット体験報告書」に、発生の経過と内容、対応、おもな原因と今後の改善策を記入し、申し送り時に職員に伝えるとともに回覧して、共有している。職員会議で再検討し一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。緊急時対応(嘔下・摂食困難、入浴時)、ノロウイルス、転倒シミュレーションなど、内部研修を年6回実施し、全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけるよう取り組んでいる。	・全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけるための定期的訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜想定のお知らせ、消火、避難訓練で避難誘導等を利用者も参加して実施している。コロナ感染症予防の為、地域住民の参加等は出来ない。協力体制の構築までには至っていない。	年5回、昼夜間想定火災時通報、避難、誘導、消火訓練を利用者も参加して実施している。そのうち4回は事業所独自で、1回は拠点合同で行っている。防火防災管理者が中心となって、全職員で水害に対する避難確保計画の打ち合わせを実施している。地域との協力体制を築くまでには至っていない。	・地域との協力体制の構築
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、日頃から利用者一人ひとりの人格の尊重、対応について話し合い誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	管理者は、職員会議の場や日常業務のなかで、利用者への言葉づかいや対応に配慮するように伝えている。職員は、人格の尊重について理解し、利用者に対して誇りやプライバシーを損ねない言葉づかいや対応に留意している。不適切な場面があった場合は、管理者が個別に指導している。個人記録等は取り扱いに注意し、守秘義務を徹底している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思疎通が出来る利用者には、本人の希望を聞いたり、自己選択により職員も考え、できる限り希望に添った対応をしている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の思いをゆっくり引き出し、気持ちに沿った対応を心掛けている。意思疎通が難しい利用者についても表情等を読み取りゆっくりペースに合わせた対応をしている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	意思疎通が出来る利用者には、着るものを選んで頂いている。認知症の進行もあり、自分で選べる利用者が減ってきている現状もある。現在は、家族より聞き取り好みの洋服を選んでいる。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	副食は、昼、夜が選択メニューの中から利用者に好みの物を選び個々の形状に合わせて提供している。利用者は、米とぎ、味噌汁の具材切り、小鉢の盛付等出来る事を職員と一緒にしている。また、利用者と職員は、同じテーブルに座り、出来ないところを支援している。2～3ヶ月に1回おやつ作りや季節の行事食(おせち、クリスマス等)の機械がある。	昼と夜の副食は法人の配食を利用し、朝食とご飯、汁物は事業所でつくっている。利用者の体調に応じてきざみ食やお粥で提供している。利用者は職員と一緒に米研ぎ、切るなどの下ごしらえ、盛りつけ、台ふき、茶わん拭き、お盆拭き、食器洗い等できることをしている。利用者と職員は、同じテーブルについて食事を楽しんでいる。季節の行事食(おせち、七草がゆなど)やおやつづくり(リンゴコンポート、ショートケーキ、フルーツポンチ、スイートポテト、ぜんざい、サンドイッチ、蒸しパンなど)、納涼祭でのかき氷、クリスマスケーキ等、食事が楽しみなものになるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	選択メニューの為、食事が偏らないよう利用者に助言したり、意思疎通が図れない利用者は、職員が調整している。月1回の体重測定や水分の摂りにくい利用者には、声をその都度かけて飲んで頂くようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとり付き添い口腔ケアの声掛けや出来ていない利用者には、尊厳を傷つけないように配慮し、介助している、(歯磨き、義歯洗浄、うがい等)夕食後は、義歯を外し、義歯洗浄に浸け、清潔保持に努めている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表等を活用し、利用者個々の排泄パターンを把握し尊厳のある声掛けにて出来る限りトイレでの排泄や排泄での自立に向けた支援を行っている。	「排泄チェック表」等を活用して排泄のパターンを把握し、一人ひとりに合わせてプライバシーに配慮しながら言葉かけや誘導をして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向の利用者には、出来るだけ薬には頼らず、毎週日曜のヨーグルトの提供や飲むヨーグルトを毎食時150CC提供している。また、天気の良い時は、施設外を散歩したり、廊下の歩行時の運動を行っている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は、毎日13時30分から15時30分までの間可能で、隔日で行っている。希望者は連日でも入浴をすることもある。入所時には、昔の話をしたり、ゆっくり入浴出来る環境を支援している。入浴の拒否がある利用者には、時間の変更、職員の交代、曜日の変更で対応をしている。	入浴は毎日、13時30分から15時30分までとしているが、希望すればいつでも可能で、利用者はゆっくりと入浴できるように話をしながら対応している。体調によって清拭、足浴、シャワー浴の支援をしている。入浴したくない人には、無理強いせず、時間をずらしたり、職員を交替したり、言葉かけの工夫をして一人ひとりに応じた入浴支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動や覚醒が夜間の入眠に大いに作用する為、体操や階段の昇り降り、棒体操、風船バレー等を行っている。運動が負担な利用者には、洗濯物たたみや塗り絵等を行い、なるべく薬に頼らず安眠出来るように支援している。疲労感のある利用者には、午後より1時間ぐらい午睡をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1回分1包化により服薬時、チェックし誤薬がないか確認(2重チェック等)徹底している。受診時、職員が看護師や医師と情報交換している。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	テレビや雑誌、洗濯物たたみ、職員と一緒に歌を歌う。塗り絵、ラジオ体操、ズンドコ体操、リハビリ体操、棒体操、小鉢の盛付、台拭き、シーツ交換、米とぎ、施設周辺への散歩、魁夷団の昇り降り、法人の行事(クリスマス会、花火大会等)、独自の行事(節分会、ひな祭り会等)気分転換を行っている。	花壇の水やり、草取り、野菜の植えつけ、収穫、芋ほり、洗濯物干し、洗濯物たたみ、シーツ交換、米研ぎ、盛りつけ、台ふき、茶わん拭き、お盆拭き、食器洗い、手芸、花を活ける、テレビやDVDの視聴、歌を歌う、ぬり絵、貼り絵、切り絵、ちぎり絵、折り紙、トランプ、カルタ、オセロ、パズル、ラジオ体操、リハビリ体操、ズンドコ体操、階段の昇降、棒体操、風船バレー、おやつづくり、季節の行事(書初め、節分祭での豆まき、ひな祭り、七夕祭、納涼祭での花火、敬老会、運動会、クリスマス会)、誕生日会など、活躍できる場面を多くつくり、楽しみごとや気分転換の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	地域周辺の散歩、季節の花見(桜)、ドライブに出掛けたり、季節の野菜を植えて、収穫している。	施設周辺の散歩、ドライブ(みかん狩り、東行庵、桜の花見、受診時の自宅周辺)に出かける他、コロナ禍で外出支援が困難だが、天候のいい日には拠点周辺の散策に出かけたり、季節の野菜の収穫など、少しでも外気に触れ季節を感じてもらおうように心がけている。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族からの預かり金を利用し買い物や散髪希望に応じて使えるようにしえんしている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から電話があった際、家族の要望や利用者本人も可能な限り電話に出て話ができるように対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングに季節ごとの大きな飾り(折り紙や塗り絵を貼った物)や季節ごとの写真、行事のお知らせ等を貼っている。花を飾って、居心地の良い空間になるよう工夫している。台所、食堂は、利用者が準備しやすいよう工夫している。ご飯の匂いがして家庭的な環境になっている。温度や湿度、換気に気を配り、居心地よく過ごせるように工夫している。	居間兼食堂は、大きな窓や天窓からの採光で明るくゆったりとしている。季節の花を飾ったり、時期に合った素材のひざ掛けを置いたりする他、その季節に沿った音楽をながし、気候の良い日は窓をしっかりと開けて外気に触れ、季節を感じてもらっている。壁に利用者と職員が一緒につくった季節の作品を飾っている。部屋の片隅やベランダには観葉植物を置き、心和む空間となっている。窓際に置いたイスやソファは、利用者がゆったりと過ごせる場所となっている。台所から調理の音や匂いがして生活を感じさせる。温度や湿度、換気に配慮し、居心地よく過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者一人ひとりの希望や同じ場所に長く座りっぱなしにならないように、職員も配慮し、椅子やソファやにて過ごせるように工夫している。1人で孤立しないように職員が話し相手になったり、利用者みなで、座って、出来る運動等行っている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	その居室にあった家具やベットを備え付けている。家族が持参した、思い入れのある写真やカレンダー、時計等を飾り、居心地の良い環境になるように工夫している。	備え付けのベッドや小タンスの他、利用者は寝具、孫やペットの写真などを持ち込み、自分のぬり絵作品を飾って居心地よく過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人ひとりの状態に合わせて職員が見守りにて、リネン交換を職員と一緒に、自立支援を行っている。また、職員は、居室の床等に歩行するのに妨げになっている物はないか常に確認し、安全に生活が送れるように配慮している。		

2. 目標達成計画

グループホーム シャンバラ

作成日：令和3 年 4 月 27日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	自己防止の取組みや事故発生時の備えとして、職員会議等で利用者個別ケアや状態に応じて話し合い、事故防止に取り組んではいるが、全職員が応急手当や初期対応の実践を身に付けているとは言えない。	全職員が定期的な訓練により応急手当や初期対応が同じレベルでこなすことができる。	定期的に勉強会で転倒(骨折・出血)、誤嚥、ノロウイルス、新型コロナウイルス等、シミュレーションによる訓練を行い、各自、実践力を身につける。	1年
2	36	定期的な避難訓練は行っているが、自力歩行困難な利用者の二階からの避難誘導に不安がある。	利用者を安全に二階より避難誘導をどのようにするのか、職員各自がイメージして訓練を行う。	定期的に勉強会や訓練を行い、実践力を各自身に付けるようにする。	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。